

スクリプトガイド.jsx

After Effectsのスクリプトやエクスペッションを作成する際に必要な情報をAfter Effects自体で調べるために作ったスクリプトです。過去作った「[スクリプト作成アシスタント.jsx](#)」の新バージョンになります。

- [スクリプトガイド.jsx](#)
 - [インストール](#)
 - [僕のインストール方法](#)
 - [機能とその使い方](#)
 - [付属スクリプトの説明](#)
 - [lib.jsxinc](#)
 - [インストールされているエフェクト.jsx](#)
 - [プロパティのアクセスコード.jsx](#)
 - [プロパティの情報.jsx](#)
 - [プロパティの情報詳細.jsx](#)
 - [プロパティリスト_***](#)
 - [レイヤのinPointOutPoint.jsx](#)

インストール

- CS6の場合は、**C:\Program Files\Adobe\Adobe After Effects CS6\Support Files\Scripts\ScriptUI Panels**
- CC2020の場合は **C:\Users(ユーザー名)\AppData\Roaming\Adobe\After Effects\17.1\Scripts\ScriptUI Panels**
または **C:\Program Files\Adobe\Adobe After Effects 2020\Support Files\Scripts\ScriptUI Panels**

にすべてのファイルをいれてAfter Effectsを再起動させてください。AEのバージョンが変わると**17.1**の所も変わるので注意してください。

メニューの**ScriptUI Panelsへインストール**は全てがコピーされないので使わないようにお願いします。

僕のインストール方法

僕はCS6とCC2020の両方を使うので面倒なので以下の方法でインストールしてます。

1. 適当な場所に**Scripts**フォルダを作成。ここでは"C:\Bin\Scripts"フォルダとします。
2. そのフォルダにCC2020の**Scripts**の中身をフォルダまとめて複製します。
3. AEが起動していたら落とします。
4. AEの**Scripts**フォルダをリネームして**Scripts_backup**とかにします。
5. 以下の管理者権限で起動したCMDで以下のコマンドを実行します。

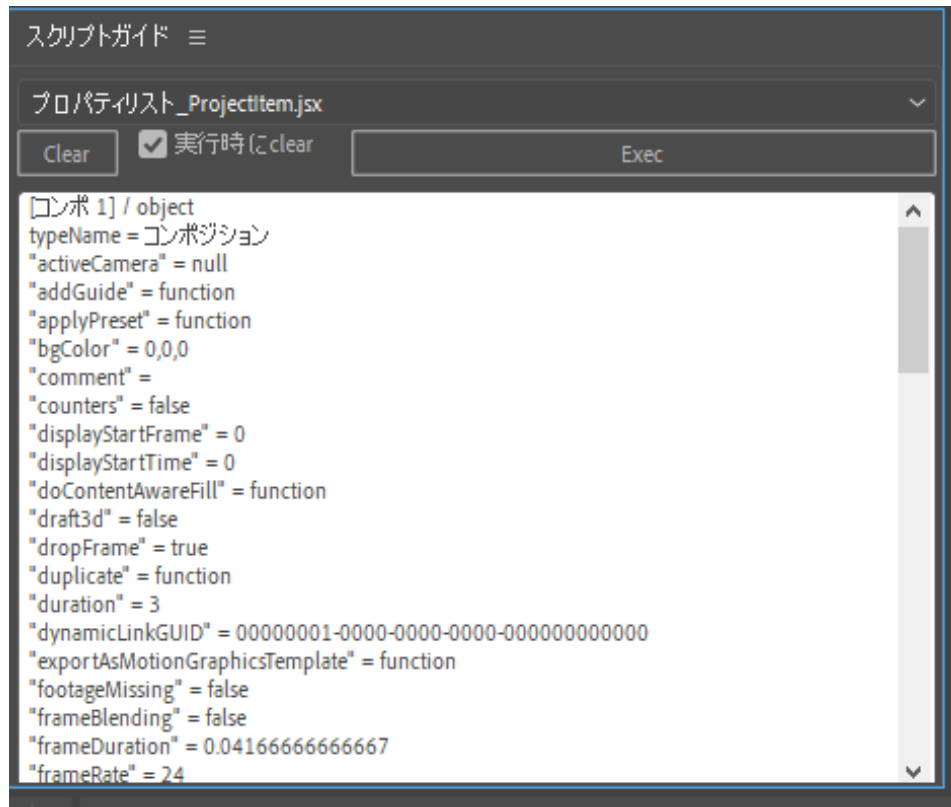
```
MKLINK /D "C:\Program Files\Adobe\Adobe After Effects CS6\Support Files\Scripts"  
"C:\Bin\Scripts"
```

```
MKLINK /D "C:\Program Files\Adobe\Adobe After Effects 2020\Support Files\Scripts"  
"C:\Bin\Scripts"
```

- 簡単に言うとジャンクジョンで1個のフォルダをCS6 / CC2020用にリンクしてるってことです。
- オマケにgitに登録して簡単にバックアップできるようにしてあります。
- 注意としては、プリセット(*.ffx)を使う場合はメニューをCS6用CC2020用に別に作らないと行けません。

機能とその使い方

- 今回機能を全部別ファイルにして簡単に機能追加できるようにしました。
- ファイルを分ける事でメンテもやりやすくなりました。



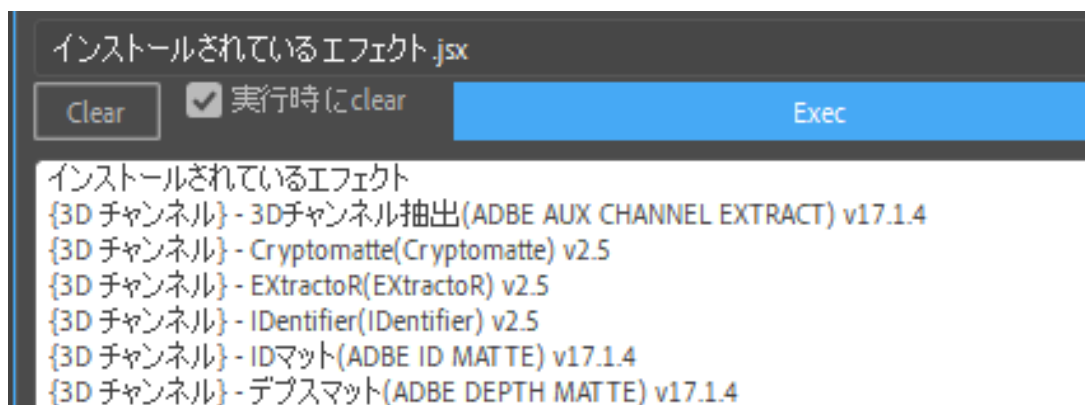
- 基本的な使い方は、上部のドロップダウンリストで使いたい機能を選んだあと、ターゲットとなるものを選択してExecボタンを押します。
- 表示されたものはコピー&ペーストできます。
- 実行されるスクリプトは同じ階層にある(スクリプトガイド)に入っています。ここにあるスクリプトはこのメニュー専用で単独で使用できないので注意してください。必要ないと思うものは適当にフォルダ作って入れておくか、拡張子をjsx以外のものに変えれば読み込まれません

付属スクリプトの説明

lib.jsxinc

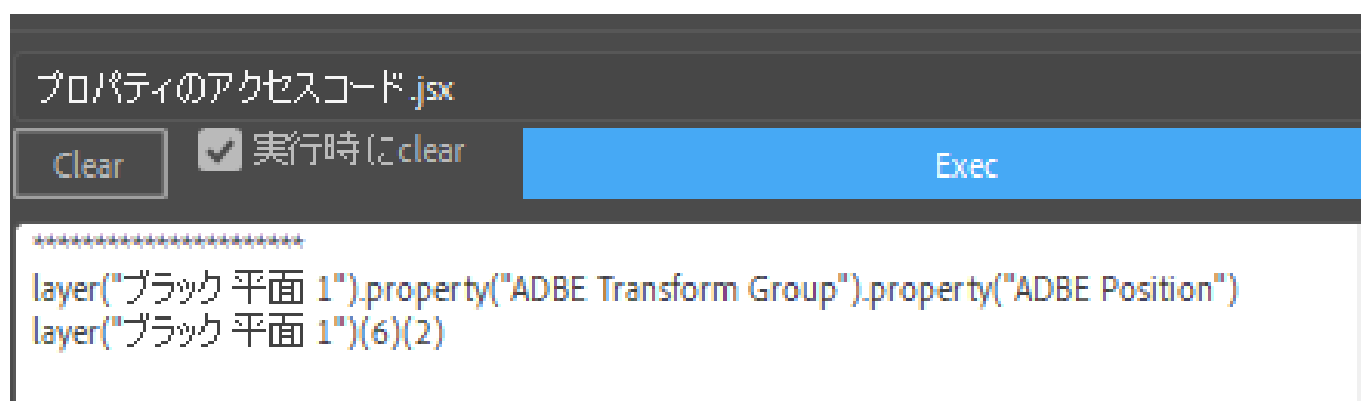
- 共通で使われる関数等を入れたライブラリファイルです。メインのスクリプトがロードされた時に読み込まれます。

インストールされているエフェクト.jsx



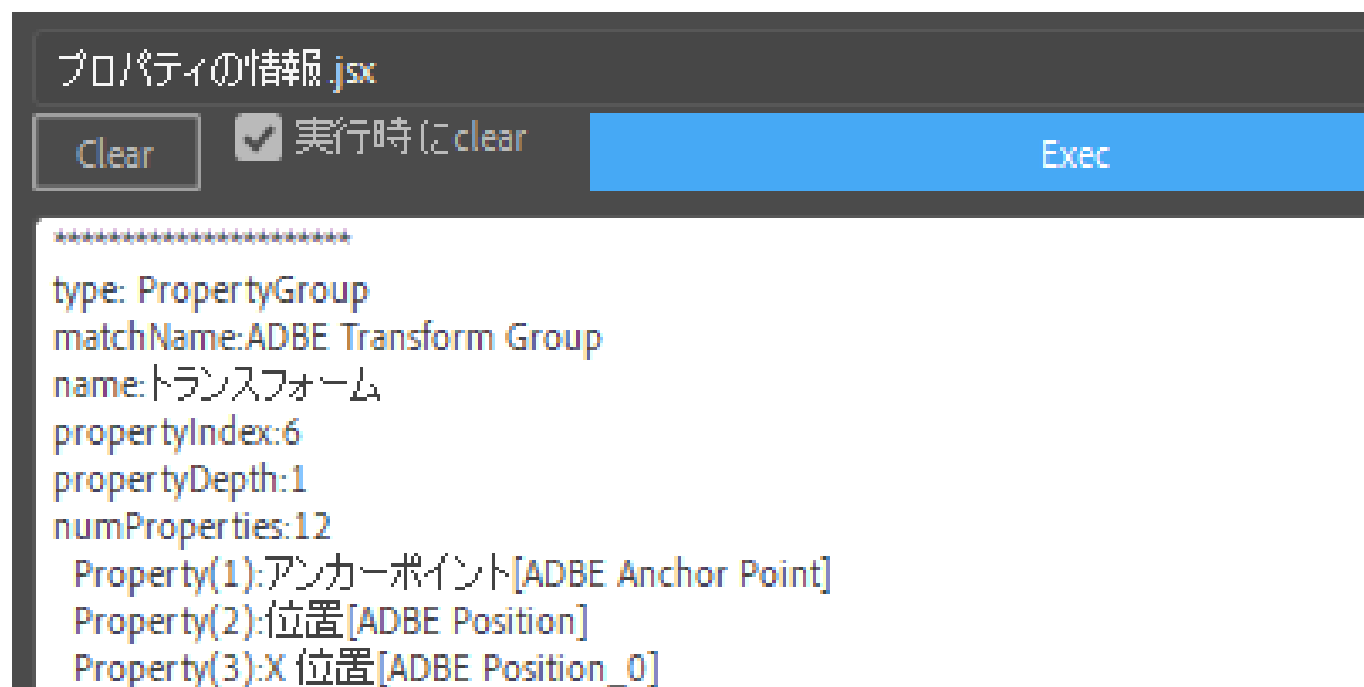
- after effectsにインストールされているエフェクトプラグインの一覧を表示します。CC2020は何故か文字化けするので無理やり修正しています。

プロパティのアクセスコード.jsx



- 選択したプロパティへのアクセラコードを出力します。 mactNameを使った名前によるアクセスコードと、インデックス番号を使ったものの2個表示します。

プロパティの情報.jsx

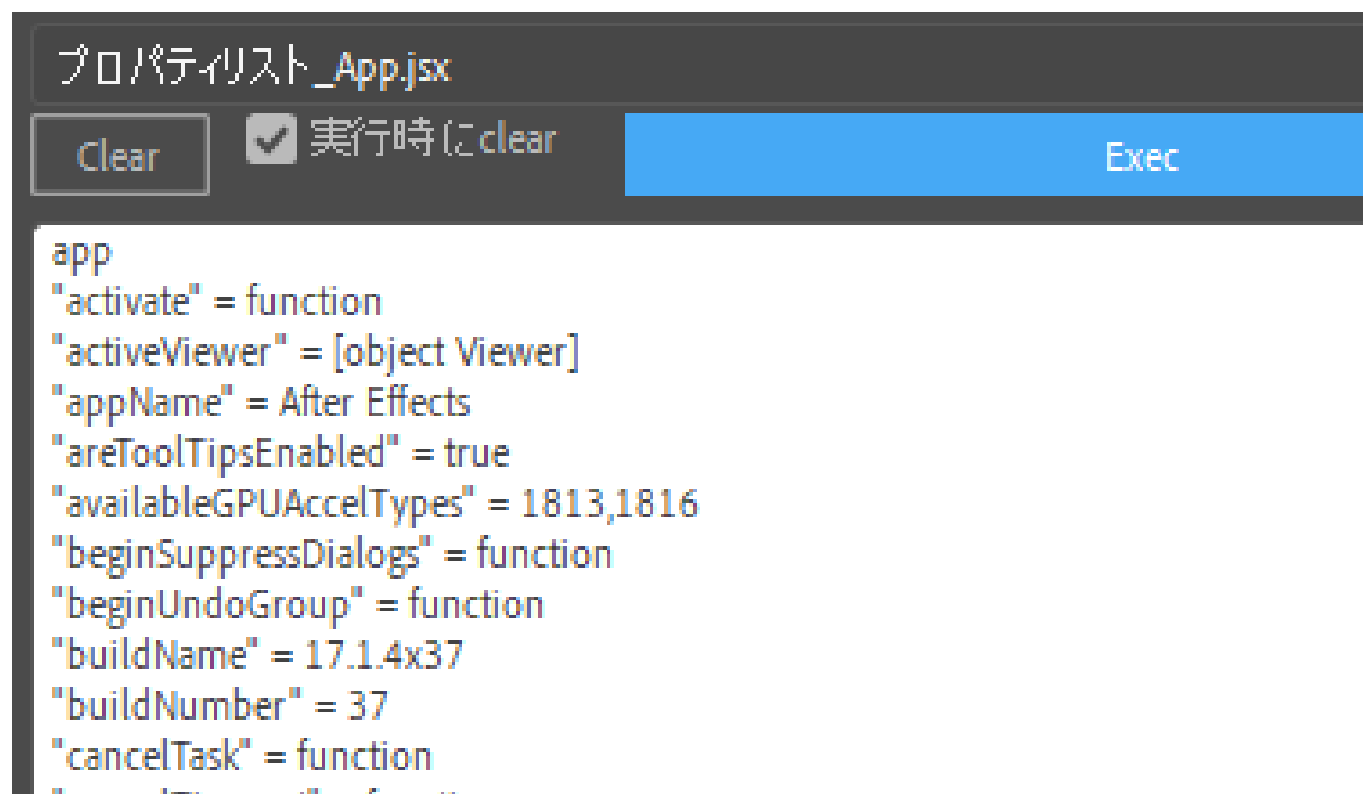


- 選択したプロパティ・プロパティグループのよく調べる情報を表示します。

プロパティの情報詳細.jsx

- 選択したプロパティ・プロパティグループのよく調べる情報すべてを表示します。

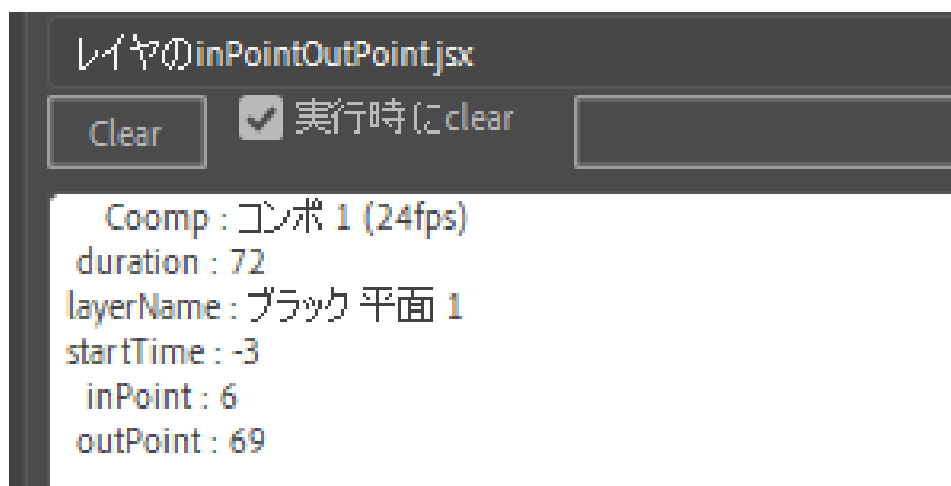
プロパティリスト_***



- プロパティリスト_***は対象のプロパティリストを表示します。なるべくその値も表示しますが細かいところまでは出来ません。

ターゲット	選択ターゲット	内容
aftereffects	なし	グローバル変数aftereffectsのプロパティリストを返します。
app	なし	appのプロパティリストを返します
\$(Doller)	なし	\$のプロパティリストを返します
global	なし	lobalのプロパティリストを返します
Layer	レイヤ	選択したレイヤのプロパティリストを返します
Project	なし	app.projectのプロパティリストを返します
ProjectItem	Item	プロジェクトパネルで選択されたもののプロパティリストを返します
Property	プロパティ	選択したプロパティのプロパティリストを返します
PropertyGroup	プロパティグループ	選択したプロパティグループのプロパティリストを返します
System	なし	systemのプロパティリストを返します

レイヤのinPointOutPoint.jsx



- 選択したレイヤのin点・out点・スタートタイムをコマ数で表示します。

bry-ful (Hiroshi Furuhashi)

gmail : bryful@gmail.com

twitter : bryful (<https://twitter.com/bryful>)

github : <https://github.com/bryful>